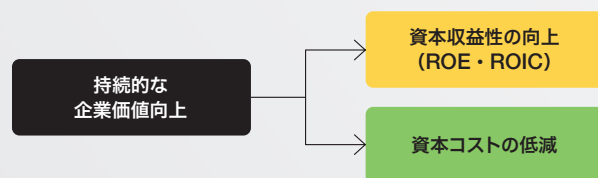


本レポートで伝えたいこと

「ヤマトホールディングス統合レポート」は、ステークホルダーの皆様との長期的な信頼関係を構築するため、経営戦略や事業概況、ESGへの取組みなど非財務情報を含めてお伝えし、ヤマトグループの中長期的な価値創造ストーリーに理解を深めていただくことを目的として発行しています。

「統合レポート2026」では、資本コストを上回る資本収益性(ROE・ROIC)の早期実現を最重要課題と位置づけ、「稼ぐ力」の再構築と事業ポートフォリオの変革を通じて、持続的な企業価値の向上をどう実現していくかを重点的にお伝えします。



株主・投資家の関心事項・よくある質問

- | | | | | |
|---|------------------------------------|---|------|--------------|
| 1 | 新体制における経営方針と「稼ぐ力」の再構築に向けた道筋は？ | → | P.2 | TOPメッセージ |
| | | | P.16 | 事業ポートフォリオの変革 |
| 2 | 資本効率(ROE・ROIC)の具体的な改善策は？ | → | P.6 | CFOメッセージ |
| | | | | |
| 3 | エクスプレス事業の収益性向上策は？ | → | P.18 | 価値創造の実践:基盤領域 |
| | | | | |
| 4 | 宅急便に次ぐ成長ドライバーは？
法人向けビジネスの拡大戦略は？ | → | P.22 | 価値創造の実践:成長領域 |
| | | | P.27 | 価値創造の実践:新規領域 |
| 5 | 構造改革を支える「AI・データ活用」と「人的資本」への取組みは？ | → | P.29 | 人事戦略 |
| | | | P.34 | デジタル戦略 |

CONTENTS

SECTION 1

使命と目指す姿

- 01 本レポートで伝えたいこと
- 02 TOPメッセージ
- 06 CFOメッセージ
- 09 グループ企業理念
- 10 挑戦とイノベーションの歴史
- 11 At a Glance

SECTION 2

価値創造ストーリー

- 12 価値創造プロセス
- 13 価値を生み出す源泉
- 15 2030年への道筋と中期経営計画
- 16 事業ポートフォリオの変革

SECTION 3

価値創造の実践

- 17 ヤマト運輸社長メッセージ
- 18 基盤領域
- 22 成長領域
- 27 新規領域

SECTION 4

グループ経営基盤の強化

- 29 人事戦略
- 34 デジタル戦略
- 36 環境戦略
- 39 社会戦略
- 41 サステナビリティ・ガバナンス
- 43 コーポレート・ガバナンス
- 43 取締役会議長メッセージ
- 44 指名報酬委員長メッセージ
- 45 コーポレート・ガバナンス体制
- 46 取締役会の実効性評価
- 47 監査役会
- 48 役員一覧/スキル・マトリックス/サクセッションプラン
- 50 役員報酬
- 51 株主・投資家との対話を通じた企業価値の向上
- 52 リスクマネジメント

SECTION 5

企業データ

- 53 パフォーマンスハイライト
- 54 10カ年データ/業績ポイント
- 55 グローバルネットワーク/社外からの評価
- 56 会社情報/株式情報

- 報告対象期間:2025年4月1日~2026年3月31日(一部対象期間外の活動も記載)
- 報告対象範囲:ヤマトホールディングス株式会社および連結子会社(一部の指標で集計対象が異なる場合は注記)
- 参考ガイドラインと情報開示について:
本レポートは、IFRS 財団「統合報告フレームワーク」および経済産業省「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス2.0」を参考に作成しています。より詳細な財務・非財務情報については、当社ウェブサイトをご参照ください。
- 将来情報に関する注意事項:
本レポートには、ヤマトホールディングス株式会社の将来についての計画や戦略、業績に関する予想および見通しの記述が含まれています。これらの記述は、本レポート制作時点で入手可能な情報に基づいたものです。これらの記述には経済情勢、消費者動向、為替レート、税制・諸制度などに関わるリスクや不確実性が多く含まれています。このため、実際の業績は、当社の見通しとは異なる可能性のあることをご承知おください。